

氏名	Qazi Mahdia Ghyas		
学位の種類	博士 (マネジメント)		
学位記番号	博 甲 第 7684 号		
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	システム情報工学研究科		
学位論文題目	A Study on the Acceptance of Mobile Information Services and Their Contribution in Needs of Life (モバイル情報サービスの受容と生活ニーズへの貢献に関する研究)		
主査	筑波大学 教授	Ph. D. (Organizational Behavior )	渡邊 真一郎
副査	筑波大学 教授 (ビジネス科学研究科)	博士 (工学)	西尾 チヅル
副査	筑波大学 教授	Ph. D. (Statistics)	金澤 雄一郎
副査	筑波大学 準教授	博士 (経済学)	生稲 史彦
副査	筑波大学 講師	博士 (学術)	近藤 文代

## 論 文 の 要 旨

本論文は顧客によるモバイル情報サービス (MIS) の受容と顧客の生活の質 (QoL) 向上につながる MIS のニーズに関する理論的研究を行ったものである。6章で構成され、1章は序章、2章から5章は顧客による MIS の受容の理論的研究および MIS による顧客の生活の質 (QoL) の向上に関する理論的研究、6章は考察、貢献、結論をまとめたものである。

顧客による MIS の受容の理論的研究ではまず MIS のニーズの構造を因子分析により分類し、主に情報集約、エンターテインメント、コミュニケーションの3つの因子を特定している。次にモバイルエンターテインメントサービス (MES) に注目し、その使用意図に影響を及ぼす要因を TAM-TPB モデルにより共分散構造方程式を用いて識別している。さらに、様々な異なる環境において、特に先進国と発展途上国の2国間および同じ国の2時点間での MES の使用意図への影響要因に関する類似性や差異を TAM-TPB モデルにより確認している。最後に MIS による顧客の生活の質 (QoL) 向上に関する理論的研究ではボトムアップ - 波及理論により、サンプル数に対して構成概念の数が多いため PLS 構造方程式を用いて分析を行い、個別の MIS が全体的生活の質 (QoL) 向上の貢献に関する興味深い知見を得た。

## 審査の要旨

### 【批評】

最初の研究では 2009 年での 2 つの先進国、日本と米国における類似した MIS のニーズ構造を確認的因子分析により 3 つまたは 4 つの因子として識別した。次に、MES の受容研究において一つの発展途上国、バングラデシュにおける 2014 年での若者の MES の受容は 2009 年の先進国である日本と米国での若者の受容と同じ受容段階にあるという仮説をたてた。バングラデシュの若者について MES に関する知覚行動制御、知覚価値、態度が行動意図に影響を与えることを表した TAM-TPB モデルをベースとし分析を行った。その際に 3 つの追加の構成概念である知覚快楽、知覚利便性と知覚使用容易性の構成概念に関する質問項目を加えた。ベースのモデルは支持されたが、追加の構成概念は支持されず、2009 年現在の日本の若者と 2014 年のバングラデシュの若者について MES 使用意向の 2 国間比較ではほぼ同じ結果を得た。したがって、この MES 利用に関する TAM-TPB モデルは若い顧客間での普遍性を持つことを示唆し、技術拡散タイミング調整後、先進国と発展途上国の双方で TAM-TPB モデルが適用できることを示した。しかし、バングラデシュでの 3 つの追加の構成概念が支持されなかった部分については深い考察が必要である。さらに、日本について 2009 年と 2014 年との時間差コンテキストで類似性・差異を検証した。2009 年では知覚価値は態度を介して使用意図の間接効果を持っていたが、両構成概念は 2014 年の日本の使用意図には影響を及ぼさなかった。逆に、知覚行動制御は 2009 年では MES の使用行動意図に態度を介して間接的に影響を及ぼしていたが、2014 年ではその間接的影響はなく直接的に影響を及ぼした。これは 2014 年では MES の価値を多くの人が認めるようになり、知覚価値は行動意図の決定要因として重要性(顧客間の変動性)が以前より減少したと解釈した。一方で、2009 年では MES の使用意図は一般的な行動の範疇ではなかったため、行動意図は顧客間で態度を通して反映されているが、2014 年では MES 使用経験の増加により自信を持って MES の使用制御が可能と考えた顧客とそうでない顧客の差が大きくなったと解釈できる。これらの研究は、国境を越えた若い顧客間で、異なる時間において、提案した TAM-TPB のフレームワークは MES の使用行動意図の決定要因の把握に役に立つことを示唆した。さらに、MES の使用意図に対する知覚価値、知覚行動制御、態度の影響に関して、初期と後期の新興市場の時間的作用を考慮して、特定の市場に合わせてカスタマイズする必要性を導き、その要因を特定したことは新規性がある。最後に、異なる生活次元における顧客の MIS ニーズが顧客の生活の質向上に関する理論的研究では、2013 年の日本のケースを取り扱い、既存研究と類似した結果や異なる結果を示し、興味深い知見を得た。

### 【最終試験の結果】

平成 28 年 1 月 21 日、システム情報工学研究科において、学位論文審査委員の全員出席のもと、著者に論文について説明を求め、関連事項につき質疑応答を行った。その結果、学位論文審査委員全員によって、合格と判定された。

### 【結論】

上記の学位論文審査ならびに最終試験の結果に基づき、著者は博士(マネジメント)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。

